

大学入学共通テスト記述式問題の利用に対する高校側の意見

○倉元直樹¹・宮本友弘¹・泉毅¹

(¹東北大学高度教養教育・学生支援機構)

キーワード：大学入学共通テスト，記述式問題，高等学校

High School Teachers' Attitude towards Writing Items Included in the New NCT

Naoki T. Kuramoto¹, Tomohiro MIYAMOTO¹ and Tsuyoshi IZUMI¹

(¹Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku Univ.)

Key Words: New National Center Test, Writing Item, High School

目的

高大接続答申（中央教育審議会，2014）に由来する大学入試改革の流れの中，高大接続システム改革会議最終報告（同会議，2016）において，改革の中心が英語4技能の測定を目的とした民間の資格・検定試験の活用とセンター試験に代わる共通テストへの記述式問題の導入に据えられた。試験の詳細が明らかにならないまま，国立大学協会が「基本方針」を発表し，国立大学は「一般選抜」の全受験生に記述式問題を含む国語及び数学を課すこととなった。

共通テストへの記述式の導入に際しては，国立大学の受験生の約9割の志願者に個別試験で記述式問題が課せられているという事実（宮本・倉元，2018）に反して，高校教育への波及効果というロジックで利用が推進されるなど，不可解な点が多い。また，記述式も英語認定試験も技術的な問題が多く，入試に耐えられる水準か疑問だ（例えば，南風原，2017）。決定が遅く，当事者の意見や事情が反映される機会もない。

東北大学入試センターでは，東北大学に志願者・合格者を多数送り出す高校を対象に改革への対応に関する調査を行った。本発表は其中で記述式問題活用に関わる項目への態度とその根拠について自由記述部分を分析した結果を報告する。

方法

調査は東北大学入試センター長が倫理審査委員会の対象ではないことを確認し，教育担当理事の承認の下，実施された。調査対象は過去4年間に8名以上の合格者を輩出した高校及び中等教育学校269校とした。2018年1月29日に校長宛にA4判両面1枚の質問票を郵送した。

質問票の内容は，東北大学のAO入試に関わる項目が4項目，英語認定試験，記述式の利用が1項目である。回答に際しては高校名を明示し，この問題に詳しい教員に記入を求めた。4月16日までに返送された回答が分析の対象である。

記述式利用に関する質問は「とても重視してほしい」「どちらとも言えない」「あまり重視してほしくない」の三者択一でそれに自由記述欄を加えた。本発表では自由記述の内容から賛否に関する意見を責任発表者が9段階に分類，さらに自由記述に記載された記述を要素に分解して連名発表者2名とともに合議の上でその有無を評定した。

結果

回収率は単純集計で81.0%であった。高校全体を母集団とした被覆率は4.4%に過ぎないが，4年間の合格者数を母集団とした場合には返送率で89.6%，被覆率でも73.8%に及ぶ。

選択式の回答結果は，記述式問題を「とても重視してほしい」が5.6%，「どちらとも言えない」が55.1%，「あまり重視してほしくない」が39.3%となった。自由記述欄への有効回答数は196校であり，選択回答とは独立に評価した自由記述の段階評価結果の分布はTable1の通りである。

Table 1 自由記述に基づく記述式問題活用への態度

1. 理念に基づき，重視希望	4 (2.0%)
2. 導入するなら積極的に	3 (1.5%)
3. 消極的賛成（よく分からない）	7 (3.6%)
4. どちらとも言えない（情報不足，賛否両論，大学の判断）	33 (16.9%)
5. 消極的反対（よく分からない）	4 (2.0%)
6. 理念は理解，方法に疑問	4 (2.0%)
7. 現状で十分（共通試験記述式へは批判なし）	11 (5.6%)
8. 個別試験で測るべき，測れている	64 (32.7%)
9. 強い反対，共通試験記述式自体が問題	66 (33.7%)

自由記述に記載された要素を分類し，対応分析を行った。結果はTable2の通りである。

Table2 対応分析結果

	第1軸	第2軸	第3軸
A.理念 [能力]	-0.2121	-0.2509	0.2808
B.試験方法 [妥当性・信頼性・自己採点]	0.7639	-0.7273	0.1165
B.試験方法 [問題内容]	0.6547	-0.0576	0.0488
B.試験方法 [難易度]	0.3941	0.6372	-0.2393
B.試験方法 [採点]	0.7025	-0.3344	-0.1492
C.必要性 [実現可能性・疑問]	0.6770	-0.7693	-0.3427
D.高校教育 (対策・影響)	0.7257	0.3212	0.6209
E.大学・入試 [個別試験]	-0.4785	-0.2116	-0.1173
E.大学・入試 [現状肯定]	-0.4699	-0.1199	-0.2618
E.大学・入試 [大学の問題]	0.1450	0.3729	-0.1096
E.大学・入試 [活用方法]	0.3039	0.6887	0.0548
E.大学・入試 [東北大学]	-0.4538	0.0958	-0.0651
H.判断不能 [情報不足]	0.4561	1.4299	-0.3931
私立	-0.0143	0.0862	0.0383
合格20名以上	0.0438	0.1181	0.0681
東北	-0.0841	0.3421	0.0219
1. 理念に基づき，重視希望	0.0234	-0.2431	0.6792
2. 導入するなら積極的に	0.2578	0.3088	1.1785
3. 消極的賛成	0.1195	0.3840	0.4548
4. どちらとも言えない	0.3481	0.8188	-0.0817
5. 消極的反対	0.0793	0.9747	-0.2162
6. 理念は理解，方法に疑問	0.8398	-0.1466	0.4530
7. 現状で十分	-0.4299	0.2989	-0.1786
8. 個別試験で測るべき，測れている	-0.5587	-0.0233	0.0320
9. 強い反対，共通試験記述式自体が問題	0.2626	-0.2999	-0.0791

考察

記述式問題の積極活用を希望している学校は非常に少ない。対応分析の軸に関しては，単純な「重視希望－軽視希望」といった意味付けは難しい。例えば，最初の2軸を用いた場合，中央付近の「2」「3」は「E.大学の問題」と近い。一方，第1軸のマイナス方向に現れる「7」「8」からは「E.個別試験」「E.現状肯定」「E.東北大学」が近く，現在の個別試験への強い信頼がうかがえる。本研究の成果は，大学の意思決定を行う際に重要な参考資料の一つとして機能すると思われる。